アセットマネジメントグループ

アセットマネジメント業務は高成長が期待される戦略事業領域です。当行では、投資信託の販売開始、第一勧業富士信託銀行の設立や富士投信投資顧問の強化など、アセットマネジメント業務に積極的な投資を行い、事業グループとして独立させることによって体制を一層強化しています。

アセットマネジメントグループとしての戦略について

時代を先取りした最新の金融技術と高品質なサービスの提供をとおして、多様化するお客さまのニーズに専門的に対応。

1. アセットマネジメントグループを取り巻く環境と役割

アセットマネジメント（資産運用・管理）の分野は、お客さまのニーズの多様化・高度化や日本版ビッグバンの本格的進展などにより、今後高い成長が期待されています。

投資信託マーケットにおいては、銀行などの金融機関へも投資信託の販売が解禁されたことで、市場の裾野が拡大してきました。加えて、確定拠出型年金制度の導入などのさまざまな要因からさらなる市場規模の拡大が予測されています。

また、企業年金マーケットでも、その資産規模の拡大にともない、運用受託業務においては運用実績重視の傾向が今後さらに強まることが予想され、投資顧問会社や信託銀行のビジネスチャンスが拡大しています。一方、平成12年度には退職給付にかかる新会計基準が導入され、企業年金の積立不足が母体企業のバランスシートに計上される見通しとなったことが、極めて重大な経営課題となっています。

このような環境認識に基づき、当行はアセットマネジメント業務を戦略事業領域と位置づけ、投資信託の販売開始、第一勧業富士信託銀行の設立、富士投信投資顧問の強化などの積極的投資を行い、その取り組みを強化しています。5月に導入した新経営体制では、第一勧業富士信託銀行と富士投信投資顧問を含め、事業グループとして「アセットマネジメントグループ」を設置し、一層の体制強化を図りました。

アセットマネジメントグループではお客さまのさまざまなニーズにお応えしていくため、以下の業務において、専門的なサービスを提供できる体制を整えています。

- 投資信託の販売
- 投資信託の設定・運用（富士投信投資顧問）
- 資産運用受託（第一勧業富士信託銀行、富士投信投資顧問）
- 資産管理受託（第一勧業富士信託銀行）

また、現在導入が検討されている確定拠出型年金制度への対応についても、具体的制度の検討状況を注視しながら、資産運用・管理、年金制度設計などさまざまな方面から検討を進めていきます。

2. 投資信託の販売戦略

平成10年12月の銀行本体における投資信託の販売解禁以降、当行では投資信託を預金と並ぶ主力商品と位置づけ、多様化・高度化するお客さまの資金運用ニーズにお応えできるよう、積極的に取り組んでいます。当行は、販売する投資信託の選定に特に力を注いでおり、専門の評価チームを東京・ニューヨークの拠点に設置し、個別商品の運用実績や運用会社自体の評価を徹底して行うことにより、グローバルな視点に立ったさまざまな種類の高品質の商品を『富士オールスターズ』として取りそろえています。

さらに、独自に『富士ポートフォリオ・アドバイザリー・シス

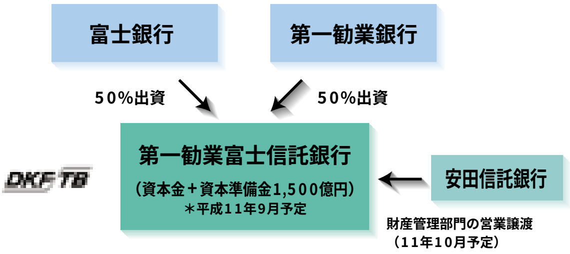
テム(F-PAS)』を開発し、一人ひとりのお客さまのライフスタイルやリスク許容度に応じて、最適な運用商品を提案する「ポートフォリオプランご提案サービス」など、質の高いコンサルティングセールスに努めています。

また、商品販売後もお客さまのアフター・ケアの充実を心がけています。

3. 第一勧業富士信託銀行の設立と、戦略的位置づけ

当行は、平成8年6月、当行100%出資の信託銀行子会社として「富士信託銀行株式会社」を設立し、良質な信託商品・サービスを提供してきました。昨年11月に、株式会社第一勧業銀行と「日本版ビッグバンの本格的進展を展望し、お客さまに一層質が高く広範な信託業務サービスの提供を図ること」を目的として、信託業務における戦略提携を行うことで合意しました。

これを受け本年4月1日には、「富士信託銀行株式会社」と「第一勧業信託銀行株式会社」が合併し、「第一勧業富士信託銀行株式会社」が発足しました。また、本年10月には、「第一勧業富士信託銀行」が、安田信託銀行から年金、証券管理、証券代行などの財産管理部門の営業譲渡を受ける



《第一勧業富士信託銀行の特色》

財産管理業務に経営資源を集中投下
- 強力な資本力(資本金+資本準備金1500億円)*平成11年9月予定
- 専門性集中により良質なサービス提供を実現

市場リスク・信用リスクを極小化した安定的な経営体質
- 邦銀トップ水準の格付(ムーーディーズ 長期預金格付 A3)

受託者責任に徹し、透明性の高い経営の実現
- 善管注意義務・分別管理・忠実義務等の受託者責任の完全履行
- 法令遵守状況確認体制の充実、業務監査制度の拡充、外部監査の導入

予定であり、すでに、内外の有力格付機関から邦銀トップ水準の格付を取得しています（※ムーディーズ社 長期預金格付 A3、フィッチIBCA 長期格付 A、R&I長期債 A）。

「第一勧業富士信託銀行」は、高い格付を背景に3行が有する顧客基盤と、安田信託銀行が持っている資産運用・管理業務に関わる卓越したノウハウ・プレゼンスを高い次元で融合させることにより、今後一層の成長が見込まれる年金受託業務や投資信託受託業務に万全の体制を整え、資産運用・管理業務のリーディング・カンパニーを目指していきます。

「第一勧業富士信託銀行」の主な業務は、以下のとおりです。

年金業務（11年10月より取扱予定）

厚生年金基金・適格年金などの企業年金制度における資産の運用・管理、年金制度の設計や年金制度のコンサルティング、年金制度加入者・年金受給者管理などあらゆるサービスをご提供します。

また、企業経営の重要課題になりつつある「新会計基準の導入に伴う退職給付債務問題」や「確定拠出型年金」などにも積極的に対応していきます。

証券カストディ業務

投資信託、年金信託、特定金銭信託など各種の資金運用において、投資家の代理人として有価証券の受渡、保管・配当金の取立などの一元的な管理を提供し、お客さまの多様なニーズにお応えしていきます。

証券代行業務（11年10月より取扱予定）

株式会社の株式名義書換、株主名簿の作成・保管、株券発行、配当金の支払、株式法務に関するコンサルティングなどの業務を通じ、お客さまの株式実務に関するあらゆるニーズにお応えします。

資産流動化業務（金銭債権信託、動産信託など）

お客さま（委託者）が保有される各種資産を信託していただき、それに基づいて発行される信託受益権を投資家に販売していきます。委託者の資金調達手段の多様化・低利調達・オフバランス化などのニーズにお応えすると同時に、投資家の皆さまに信託受益権という有利な商品を提供します。

4. 富士投信投資顧問の強化

富士投信投資顧問は、資産運用の専門会社として、投資信託の設定・運用を行う「投資信託業務」と、年金基金や機関投資家などのお客さまに対し、オーダーメイドのきめ細かい運用サービスを提供する「投資一任業務」を行っています。

運用体制の面では、東京（本社）、ロンドン（Fuji-Lord Abbett International, Ltd.：英国現地法人）、ニューヨーク（Lord, Abbett & Co.：米国老舗資産運用会社）の三極体制を確立しており、投信・投資顧問両面でグローバルネットワークを効果的に活用し運用成果の向上を図っています。

同社の英国現地法人Fuji-Lord Abbett International, Ltd.は、英国の代表的な運用評価機関CAPS社による英国年金向け株式投信運用成績で平成11年3月末迄の過去7年間で同種54ファンド中第1位の評価を受けています。その卓越した運用能力は、同社の投信商品『富士グローバルアクティブオープン』においても活用されています。

また、人材の面では、富士銀行グループ以外からも有能

な人材の採用を積極的に行っており、専門性の高いプロフェッショナル集団を形成しています。

当行は、お客さまの多様な運用ニーズにお応えするために、今後も同社を一層強化していきます。

《富士投信投資顧問のこれまでの歩み》

昭和60年7月	富士銀行グループの資産運用会社として富士銀投資顧問創業。
平成4年6月	ロンドンにFuji Investment Management Company (Europe)を設立。
平成5年9月	都銀への投資信託委託業務解禁を受けて、富士投信を子会社として設立。
平成7年11月	投資顧問業務と投資信託委託業務の併営解禁を受けて、富士投信と合併し、富士投信投資顧問に改称。(銀行系初の投資顧問会社と投信委託会社の合併)
平成10年9月	Fuji Investment Management Company (Europe)を増資し、体制・業務を強化。富士投信設立以来親密な業務提携関係にある米国の老舗の独立系資産運用会社ロードアベット社(Lord Abbett & Co.)からも新たに出資を受入れ、社名をFuji-Lord Abbett International, Limitedに変更。